Multilingual landscape

外国語学部　英語英文学科　3年　小糸真央、三谷菜乃羽、外園将

中村ジェニスゼミでは、前期には心理言語学の観点から、後期にはフィールドワークも行いながら社会言語学の観点からMultilingualismを学習しました。その中でもゼミメンバーが特に力を入れて取り組んだのは、COVID-19の世界的感染拡大によって町中に出現した言語景観の研究です。言語景観とは、公共の場で用いられている言語に関する研究のことを言います。私たちは11月に開催された英語英文学科主催のプレゼンテーションコンテストで、東京と横浜におけるCOVID-19に関する言語景観が与えた影響について発表することを目標に、夏休みから、後学期の授業開始に向けて、COVID-19によって変化した東京と横浜の言語景観について研究しました。夏休み中の活動としては、ゼミのメンバーが、フィールドワークを通して街中で見つけたCOVID-19に関するポスターを170枚程度は写真にとってデータを集める作業を行いました。取集したデータをもとに、後学期が始まってからはデータの整理に加え、ポスターが表現する言語景観にはどういう意図があるのかを考えました。実際にプレゼンテーションコンテストに出場できるのは4人だけだったため、プレゼンター1人ひとりにサポートメンバーとしてゼミの残りのメンバーが付くという形で発表に向けてパワーポイントの作成や練習を行いました。その結果、全員の協力によって行われた言語景観の研究発表は、プレゼンテーションコンテストで堂々の1位という評価を頂きました。

このように、中村ジェニス先生の専門分野であるMultilingualismの観点から世の中を観察すると、私たちが生活している環境における言語的特徴から、その地に起こっている環境の変化を発見できることを学びました。

[Yokohama Chinatown]

コロナ禍で思うように活動ができないことがある中、私たちは幸いにも横浜中華街へ行き、中国語と他言語の標識に焦点を当てて、「言語景観」のフィールドワークを行うことができました。横浜中華街は観光地として有名で、日本人観光客だけでなく、多くの外国人観光客も訪れる場所です。そのためグローバルな社会になりつつある現在、こういった観光地では、物の表記を日本語だけでなく、世界共通言語の英語でも表すことが望まし

いことだと考えていました。しかし、ここでは主に在日中国人が各店舗を運営しているため、表札や値札に手書きのものが多くありました。そして、それらは中国語と日本語が混合して書かれていたり、誤った日本語で書かれていたりしました。公共標識で使用されている言語は、どの言語が地域に関連しているのかを示しています。そして、「言語景観」は、都市空間の進化を理解するための有用な方法になりつつあります。さらに、「言語景観」の標識は、都市のアイデンティティと、使用者の存在の指標、即ち縄張りの表示を表しています。つまり、ここでの「言語景観」は、横浜中華街は日本という国の中にある場所であるが、この場所は中国人を中心とした街であることを意味しています。

[A tour of Bluff (Yamate)]

また私たちは、ゼミ活動の一環として、11月に横浜の中華街から少し外れた横浜山手地区にある山手西洋館と山手資料館に行きました。そこの町並みは自然豊かで、花々や木々に囲まれており、中華街とは対照的に品のある雰囲気でした。横浜山手地区では、外国人の居留地として横浜の開港時代から関東大震災に至るまで、当時の暮らしを残し伝えています。山手資料館には、小さな室内に蓄音機やガラス製品など横浜開港時代を思いおこさせるようなものが多く保存されていました。また、2階からはアメリカ黒船艦隊の来航により出た軍人の死者の埋葬から始まった墓地を見ることができます。そこには横浜開港に携わった人々や外国人が眠っています。フランスやイギリス、スペイン式の西洋館はとても大きく圧倒されました。それはただ広さを感じるだけではなく歴史的背景を感じることができました。横浜中華街は横浜でとても有名な観光名所であるが、そこに住んでいる中国人を日本に連れてきたのはイギリス人だとされます。ベーリック・ホールはスペイン風の洋館となっており、他の洋館とは違った作りとなっています。そこにはダンスホールがついており昔は人を招き入れダンスパーティを開くなどレクリエーション目的で使われていました。そのほかの西洋館でも同じですが、室内が広く掃除などが大変な印象を受けました。しかし当時は使用人として中国人が仕えていたため、掃除などに困ることはなかったそうです。この山手は観光名所の中華街より歴史的な文化や当時の生活様式が多く現れていると感じました。

現在、このような状況が続いていますが、実際にフィールドワークを行うことができたからこそ、今の私たちに様々な発見や学びがあります。このような機会を設けてくださった中村ジェニス先生には感謝でいっぱいです。来年はどうなるか分かりませんが、ぜひ機会があれば楽しんでください。